令和6年 第3回定例会

苫小牧港管理組合議会会議録

令和6年11月22日開催

苫 小 牧 港 管 理 組 合 議 会

令和6年 第3回定例会
苫小牧港管理組合議会

令和6年11月22日（金曜日） 午後1時32分開会

○本日の会議に付議した事件

日程第1 会議録署名議員の指名について

日程第2 会期の決定について

日程第3 諸般の報告について

日程第4 報告第1号について

報告第1号 公営企業に係る資金不足比率について

日程第5 議案第1号について

議案第1号 令和5年度苫小牧港管理組合各会計歳入歳出決算の認定について

日程第6 一般質問

○出席議員（10人）

1番 赤根広介君

6番 竹田秀泰君

2番 池田謙次君

7番 戸田安彦君

3番 板谷よしひさ君

8番 松尾省勝君

4番 沖田清志君

9番 谷川芳一君

5番 首藤孝治君

10番 藤沢澄雄君

○説明員出席者

管理者職務代理者専任副管理者

佐々木 秀郎 君

副 管 理 者

木 村 淳 君

総 務 部 長

早 崎 仁 康 君

施 設 部 長

松 田 雅 宏 君

港 湾 政 策 室 長

山 崎 直 人 君

政策推進課長兼港湾政策室主幹

吉 田 裕 一 君

総 務 課 長

荒 井 晃 君

業 務 経 営 課 長

京 野 勇 一 君

計 画 課 長

白 川 友 秀 君

施 設 課 長

藤 田 尚 也 君

会計管理者兼出納室長

竹 田 祐 士 君

港 灣 政 策 室 副 主 幹	有 澤 博 文 君
總 務 課 長 補 佐	上 林 孝 治 君
業 務 經 營 課 長 補 佐	早 坂 洋 樹 君
施 設 課 長 補 佐	岩 瀨 泰 士 君

監 查 委 員	佐 藤 則 子 君
監 查 委 員	越 川 慶 一 君
監 查 委 員 事 務 局 長	桜 田 齋 君
監 查 委 員 事 務 局 主 幹	武 藤 大 介 君
監 查 委 員 事 務 局 副 主 幹	紺 世 友 樹 君

○事務局職員出席者

事 務 局 長	荒 井 晃 君
庶 務 係 長	上 林 孝 治 君
議 事 係 長	若 狹 健 大 君
書 記	伊 藤 晴 香 君

○開会

○議長（藤沢澄雄君） これより、本日をもって招集されました令和6年第3回定例会を開会いたします。

○開議

○議長（藤沢澄雄君） それでは、本日の会議を開きます。

○会議録署名議員の指名

○議長（藤沢澄雄君） 日程第1「会議録署名議員の指名」を行います。

会議録署名議員は、会議規則第85条の規定により、議長において、首藤孝治君及び竹田秀泰君を指名いたします。

○会期の決定

○議長（藤沢澄雄君） 日程第2「会期の決定」を議題といたします。

本定例会の会期は、本日1日間といたしたいと存じますが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（藤沢澄雄君） 御異議なしと認めます。

よって、会期は、本日1日間と決定いたします。

○諸般の報告

○議長（藤沢澄雄君） 次に、日程第3「諸般の報告」を行います。

監査委員より、令和6年度7月から9月分の「現金出納検査の結果」並びに「令和6年度定期監査及び財政援助団体等監査の結果」の報告がありました。

既に配付しております議案等に報告書の写しがございますので、後ほど御覧ください。

○報告第1号 公営企業に係る資金不足比率について

○議長（藤沢澄雄君） 次に、日程第4、報告第1号「公営企業に係る資金不足比率について」を議題といたします。

説明を求めます。

総務部長、早崎仁康君。

○総務部長（早崎仁康君） 報告第1号「公営企業に係る資金不足比率について」を御説明申し上げます。

議案等の1ページを御覧ください。

これは、地方公共団体の財政の健全化に関する法律第22条第1項の規定に基づき、令和5年

度苫小牧港管理組合港湾整備事業特別会計の決算に基づく資金不足比率について報告するものでございます。

資金不足比率は、決算年度に係る資金不足額の規模に対する比率を表す指標であり、当該比率が経営健全化基準である20%以上となった場合は、経営健全化計画を定めることとなります。

港湾整備事業特別会計につきましては、歳出額が歳入額を上回るような資金不足を生じていないため、3ページのとおり資金不足比率は算出されておられません。

以上、報告第1号の公営企業に係る資金不足比率につきまして、5ページにあります監査委員の審査意見をつけて御報告申し上げます。

○議長（藤沢澄雄君） ただいまの説明に関し、御質問等ございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（藤沢澄雄君） 御質問がなければ、本件は終了いたします。

○議案第1号 令和5年度苫小牧港管理組合各会計歳入歳出決算の認定について

○議長（藤沢澄雄君） 次に、日程第5、議案第1号「令和5年度苫小牧港管理組合各会計歳入歳出決算の認定について」を議題といたします。

説明を求めます。

管理者職務代理者専任副管理者、佐々木秀郎君。

○専任副管理者（佐々木秀郎君） 議案第1号「令和5年度苫小牧港管理組合各会計歳入歳出決算の認定」につきまして御説明申し上げます。

議案等の9ページを御覧ください。

これは、地方自治法第233条第3項の規定により、監査委員の審査意見をつけて、議会の認定に付するものでございます。

初めに、一般会計でございますが、議案等の15ページ、「令和5年度苫小牧港管理組合一般会計歳入歳出決算書」を御覧ください。

歳入決算額は53億3,922万2,614円、歳出決算額は52億676万9,920円、歳入歳出の差引残額は1億3,245万2,694円です。

この残額は、翌年度へ繰越しする予定でございます。

次に、32ページを御覧ください。

一般会計の歳入合計についてですが、当初60億8,544万9,000円で予算編成いたしました。その後、6億763万円の減額補正を行ったほか、令和4年度からの繰越額3億3,013万7,446円を含めた最終予算現額は58億795万6,446円でございます。

続きまして、41ページを御覧ください。

一般会計の歳出合計についてですが、予算現額58億795万6,446円に対し、支出済額は52億676万9,920円、翌年度繰越額は4億4,120万3,000円、不用額は1億

5, 998万3, 526円でございます。

不用額の主なものは、西港及び東港総務管理費の負担金、補助及び交付金や西港施設管理費の委託料の残などによるものでございます。

次に、港湾整備事業特別会計でございます。

19ページにお戻りください。

歳入決算額は38億4, 643万8, 595円、歳出決算額は38億4, 643万8, 595円、歳入歳出の差引残額はゼロ円でございます。

次に、52ページを御覧ください。

特別会計の歳入合計についてですが、当初35億9, 436万7, 000円で予算編成いたしました。その後、4, 694万円の減額補正を行ったほか、令和4年度からの繰越額4億665万6, 000円を含めた最終予算現額は39億5, 408万3, 000円でございます。

続きまして、59ページを御覧ください。

特別会計の歳出合計についてですが、予算現額39億5, 408万3, 000円に対し、支出済額は38億4, 643万8, 595円、翌年度繰越額は6, 600万円、不用額は4, 164万4, 405円でございます。

不用額の主なものは、東港施設管理費の委託料の残などによるものでございます。

以上、議案第1号につきまして御説明申し上げます。

御審議の上、御承認賜りますよう、よろしく御願申し上げます。

○議長（藤沢澄雄君） 次に、監査委員から本決算認定の審査の結果について御報告をいただきます。

監査委員、佐藤則子君。

○監査委員（佐藤則子君） 令和5年度苫小牧港管理組合一般会計及び港湾整備事業特別会計の決算につきまして、審査の概要を申し上げます。

議案等の80ページ、苫小牧港管理組合決算審査意見書の審査結果及び意見を御覧願います。

決算に関する書類の「各会計歳入歳出決算書」、「歳入歳出決算事項別明細書」、「実質収支に関する調書」及び「財産に関する調書」は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、また、表示された計数は、証書類と符合し、正確であることを認めております。

次に、各会計の予算の執行及び事務処理につきましては、別に実施した定期監査で一部改善を要するものが見受けられましたが、おおむね適正かつ効率的に執行されております。

なお、各会計における決算状況及び審査意見の詳細につきましては、意見書の内容を御参照ください。

以上でございます。

○議長（藤沢澄雄君） これより質疑に入ります。

ただいまの説明に関し、質疑はございませんか。

竹田秀泰君。

○議員（竹田秀泰君） 私のほうから2点ほどお聞きをしたいというふうに思います。

最初に、組合債現債額についてお伺いしたいと思います。

決算審査意見書の中に、組合債現債額について、329億8,000万円と前年に比べ16億2,000万円ほど増加しております。最近5年間の組合債現債額の推移を見ますと、令和4年度を除き借入額が償還額を上回っており、令和5年度も増加していると記載されておりますけれども、これが高額になった理由と今後の見通し及び来年度以降の事業継続に支障があるのかないのか、それについてお伺いしたいというふうに思います。

次に、分担金と負担金の関係についてお伺いしたいと思います。

前年度と比較して2億2,097万円を増加し、18億1,158万円となっておりますけれども、最近では減少傾向にありましたが、令和5年度増加の理由と今後の推移について、これについてお伺いしたいというふうに思います。

以上です。

○議長（藤沢澄雄君） 総務部長、早崎仁康君。

○総務部長（早崎仁康君） それでは、私のほうから組合債現債額と分担金及び負担金についてお答えさせていただきたいとします。

初めに、組合債現債額が増加した理由と今後の見通し及び事業継続についてのお尋ねでございますが、令和5年度は西港区で約30年ぶりとなります国の新規岸壁整備事業の早期供用開始に向けて、背後の中央北ふ頭荷捌き地新設工事などを促進するため、令和4年度に比べて組合債の借入れが増加したところでございます。

ただ、組合債現債額は20年ほど前には約446億円ございましたが、これまで緊急性や重要性など必要な事業の優先度を考慮しながら港湾整備に努めてきたことで、今では約25%の減少を達成しております。

今後の見通しにつきましては、現段階において東港区浜厚真地区の直轄事業に併せて背後の周文ふ頭荷捌き地新設工事などを進めるため、進捗状況によっては借入額の増額も想定されているところでございます。引き続き、将来の償還額に注視し、管理組合の経営状況に支障を来すことのないよう、事業計画の推進と管理運営に努めてまいりたいと考えているところでございます。

続きまして、分担金及び負担金の増加理由と今後の推移についてのお尋ねでございますが、母体負担金は起債事業などで借入れが増えたから増加するというものではなく、管理組合全体の収支バランスの中で増減していくものであり、決算額ベースでは20年ほど前の約35億円をピークに、令和5年度は約18億円と、ほぼ半減をしております。ただし、令和5年度につきましては港内で水深が確保されない箇所があり、急遽、維持浚渫工事が必要となったことなどから、例年に比べて施設管理費の支出が増え、母体負担金の決算額が増額となったものでございます。

今後も、苫小牧港の管理運営や港湾整備を進めていく中で必要な事業費の支出が増加すること

も想定されますが、できる限り母体の財政負担とならないよう努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（藤沢澄雄君） 他に質疑はございませんか。

竹田秀泰君。

○議員（竹田秀泰君） 再質問させていただきたいと思っておりますけれども、組合債現債額ですが、今の答弁では20年前には446億円規模であったということをおっしゃっていただきましたけれども、令和3年度の歳入で組合債比率ですが、45.3%になっています。令和4年度が33.5%、令和5年度を見ますと44.5%になっています。組合債現債額が増加しておりますけれども、私としては歳入に対する組合債比率が非常に高いというふうに考えておりますが、これに対する管理組合の考え方を教えていただきたいというふうに思います。

分担金及び負担金については、20年前には35億円あったということですがけれども、私どもの資料としては令和元年しかありませんので、直近で17億円前後で推移していたため、ちょっと質問させていただきました。これについては分かりました。

以上です。

○議長（藤沢澄雄君） 総務部長、早崎仁康君。

○総務部長（早崎仁康君） それでは、私のほうからまた組合債現債額の再質問についてお答えさせていただきたいと思っております。

苫小牧港の歳入に対する組合債比率についてのお尋ねでございますが、当管理組合の財政につきましては、組合債現債額や歳入に占める組合債の比率をもって管理しているわけではなく、組合債の償還が今後どう推移していくか、極端な増加によって大きな負担とならないよう、長期的な償還計画を立てながらチェックしていくことが重要だというふうに認識をしているところでございます。

先ほども御答弁させていただきましたが、組合債現債額は20年ほど前より約25%減少し、毎年の償還額についてもピークの約半分以下まで減少してきたところでございます。

今後も、港湾整備事業の進捗状況によっては借入額の増加も想定されますが、単年度におきましても急激に償還額が増加することのないよう、将来を見据えた全体の収支バランスの中で必要な港湾整備を計画的に進めてまいりたいと考えているところでございます。

なお、災害復旧事業などによって償還額に急激な増加が見込まれる場合には改めて議会に丁寧な説明をさせていただきたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（藤沢澄雄君） 他に質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（藤沢澄雄君） なければ、質疑を終結いたします。

それでは、議案第1号についてお諮りいたします。

議案第1号を原案のとおり決することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(藤沢澄雄君) 御異議なしと認めます。

よって、議案第1号は、原案のとおり可決されました。

○一般質問

○議長(藤沢澄雄君) 次に、日程第6「一般質問」の通告が竹田秀泰君、池田謙次君からありますので、順次これを許します。

竹田秀泰君。

○議員(竹田秀泰君) 私のほうから一般質問をさせていただきたいというふうに思います。

通告に従いまして順次質問させていただきたいというふうに思います。

最初に、苫小牧港港湾脱炭素化推進計画の中で、各施設のLED改修についてお伺いしたいというふうに思います。

カーボンニュートラルの取組の一環で管理組合が管理しています道路照明、港湾照明などのLED改修が現在どこまで進んでいるのか、進捗状況をお伺いしたいというふうに思います。

それと、特に日中でも照明が必要な上屋内部照明、これのLED化の改修状況はどのようになっているのか、管理上屋が8棟あると聞いていますけれども、どこまで進んでいるのか、それについてお伺いしたいというふうに思います。

あわせて、今後のこの計画はどういうふうになっているのか、それについてお伺いしたいというふうに思います。

次に、LNG燃料フェリーのことについてお伺いしたいと思います。

株式会社商船三井さんふらわあが苫小牧・大洗間にLNG燃料フェリーの新型船を2025年の就航を目指しているというふうに聞いております。この新型フェリーは最新技術を駆使し、CO₂を35%削減効果があるというふうに言われております。

同社が今年からLNG燃料フェリーの新型船を就航させております大阪・別府間のフェリーは、内航船省エネルギー規格最高評価を受け、特に、さんふらわあ「くれない」は、物流環境大賞など多くを受賞して、すばらしい船と聞いております。苫小牧港にも新型船就航の予定のありますさんふらわあ「かむい」と「ぴりか」の2隻があると聞いていますが、正式な就航時期が分かれば教えていただきたいというふうに思います。

次に、大阪・別府航路では、LNG燃料供給は別府港で行い、大阪港では行わないと聞いています。苫小牧港での燃料供給は行うのか、それについてお伺いしたいというふうに思います。

別府港ではタンクローリー4台とスキッドと呼ばれる導管装置を用い本船に供給するT r u c k t o S h i p方式を用いていると聞いていますけれども、苫小牧港での供給方法を教えて

いただきたいというふうに思います。

次に、フェリーの座礁事故についてお伺いしたいというふうに思います。

今年7月2日午前1時20分頃、八戸発苫小牧行きのフェリーが苫小牧港の入り口付近の消波ブロックに座礁事故を起こしてから約5か月間が過ぎ、ある程度の調査も進んでいると考えております。

そこで何点かお伺いしたいと思いますが、最初に、正規な入港ルートから乖離した理由や、現在の時代はGPS装置が装着され、自船位置も確認できると聞いていますが、事故の原因を分かる範囲で教えていただきたいというふうに思います。

次に、このフェリーの座礁事故に対する港管理組合の管理監督の責任はあるのかどうかについてお伺いしたいと思います。

次に、座礁した消波ブロックは国管轄の場所と聞いておりますけれども、被害状況と被害補償はどのようになっているのか、これについても分かる範囲でお伺いしたいと思います。

最後に、事故後、海上保安庁がフェリーの座礁を受けて、再発防止対策として苫小牧船舶通信信号所に船跡逸脱監視機能を追加実施すると聞いておりますけれども、この機能の内容と、今後安全対策の追加があるのか、それについてお伺いして、1回目の質問を終わります。

○議長（藤沢澄雄君） 答弁を求めます。

施設部長、松田雅宏君。

○施設部長（松田雅宏君） 私のほうからは、各施設のLED改修状況についてお答えさせていただきます。

当管理組合では、道路や荷さばき地、上屋におけます照明のLED化を進めているところでございます。これら施設の管理照明に占めますLEDの割合は、昨年度末時点で39%、今年度末で50%となる見込みでございます。

また、上屋単位で見ますと、LEDの設置が終了したのは全8棟中、昨年度末時点で2棟、今年度末時点で4棟となる予定でございます。

引き続き、国の地球温暖化対策計画におけます目標年次である2030年度に向けまして、予算の平準化に努めますとともに、従来品の生産終了の動きにも注視しながら取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長（藤沢澄雄君） 総務部長、早崎仁康君。

○総務部長（早崎仁康君） 私のほうからは、LNG燃料フェリーとフェリー座礁事故についてお答えさせていただきたいと思います。

初めに、LNG燃料フェリーの就航時期とLNG燃料供給体制についてのお尋ねでございますが、今回新たに就航いたしますLNG燃料フェリーにつきましては、重油とLNG燃料双方を切り替えて運航可能な二元燃料エンジンを搭載しておりまして、「さんふらわあかむい」は202

5年の1月21日、「さんふらわあぴりか」は2025年春頃就航の予定となっております。

次に、同フェリーのLNG燃料供給でございますが、苫小牧港でも供給はされるものと伺っております。供給開始の具体的な時期につきましてははまだ公表されておりましたが、方式としては別府港と同様、タンクローリー4台と本船を接続するTruck to Ship方式にて供給する予定というふうになってございます。

続きまして、フェリー事故について何点か御質問がございました。

初めに、事故原因についてのお尋ねがございましたが、事故原因につきましては、現在、国土交通省運輸安全委員会及び海難審判所において調査中とあるというふうに聞いていることから、現時点においては不明でございます。

次に、当管理組合の管理監督に関してのお尋ねでございますが、港湾管理者として、例えば航路を含む水域において良好な状態に維持するよう当事者へ指導等を行う責任はございますが、今回の場合は、船舶が航路から逸脱し、港内消波ブロックに乗り上げる事故が発生したものでございまして、当管理組合の管理監督関係はないものというふうに認識をしているところでございます。このため、今回の事故につきましては、船舶の安全運航に係る運航事業者の管理監督によるものというふうに考えております。

一方で、フェリーの運航会社では、今回の事故を教訓に再発防止策を策定し、引き続き安全運航に努めていくというふうに聞いてございますので、当管理組合としても安全運行や再発防止策について確認してまいりたいと考えております。

次に、被害状況と被害補償についてのお尋ねでございます。

今回の座礁箇所につきましては、西港区港口にございます海面処分用地の護岸であって、その前面には消波ブロックが設置されており、現在、国土交通省北海道開発局が所管をしている施設でございます。

損傷施設の改修と補償について、出先機関であります室蘭開発建設部苫小牧港湾事務所に確認したところ、現在、原因者において被害規模に関する調査を行っているため、被害に関する補償内容等については把握をできてございません。

次に、船跡逸脱監視機能と今後の安全対策についてのお尋ねでございますが、令和6年7月に発生いたしましたフェリー乗揚げ事故を受け、海上保安庁では座礁防止の監視システムを導入するといった報道がありました。

これは、通常の航路を船舶自動識別装置AISに設置し、航路からの逸脱があった場合、信号所に警報が鳴り、管制官が対象の船に船舶電話で注意喚起できるシステムというふうに伺っております。

今後の安全対策について、事故原因等が公表されておられませんので、具体的な安全対策についてお示しすることはできませんが、当管理組合といたしましても、関係者とともに、海上交通の安全ルールが定められた苫小牧海上交通安全規約などを活用しながら注意喚起してまいりたいと

考えております。

以上でございます。

○議長（藤沢澄雄君） 竹田秀泰君。

○議員（竹田秀泰君） それでは、2点ほど再質問をさせていただきたいというふうに思います。

LNG燃料フェリーですけれども、世界的にも新造船が増えていると聞いています。苫小牧港でもRORO船やフェリーが多い中、苫小牧港における次のLNG燃料の船舶の普及について、今後の見通しはどのようなふうになっているのか、お伺いしたいというふうに思います。

次に、フェリーの座礁事故についてですけれども、管理組合としては管理監督責任はないというふうに言われましたけれども、今回の座礁事故の原因がはっきりした段階で、苫小牧港管理組合として、事故当事者に対する行政指導とか通達、こういったものがあるのかないのか、それをお聞きして、終わりたいというふうに思います。

以上です。

○議長（藤沢澄雄君） 答弁を求めます。

総務部長、早崎仁康君。

○総務部長（早崎仁康君） 私のほうから、LNG燃料フェリーとフェリー座礁事故の再質問についてお答えさせていただきたいと思います。

初めに、苫小牧港におけるLNG燃料船の普及の見通しについてのお尋ねがございましたが、近年、船舶燃料の低・脱炭素化が進められている状況から、今後、LNG燃料船についても普及していくものと考えておりますが、現時点での具体的な動きは把握してございません。

当管理組合では、将来LNG燃料化される船種に応じたLNG供給インフラについて、引き続き船社等関係者から情報収集を行い、業界の動きを注視しながら必要なサポートを行ってまいりたいと考えているところでございます。

次に、フェリー座礁事故について、事故当事者に対する行政指導等に関してのお尋ねがございました。

繰り返しとなりますが、現時点におきましては具体的な安全対策等について示されておきませんが、行政指導等については、国等の所管機関から必要に応じてなされるものというふうに認識しておりますので、事故当事者に対する当管理組合からの行政指導等につきましては考えてございません。

ただし、今回の事故が船舶の安全運航確保のためのルールを守らなかったことが原因だったとするならば、苫小牧港及びその境界付近における船舶事故の防止及び船舶を災害から未然に守ることを目的に策定されている苫小牧海上交通安全協議会規約にうたわれております船舶の安全運航確保のための合意事項を遵守するよう、いま一度、船舶代理店及び運航管理会社等に対して、関係者とともに注意喚起してまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（藤沢澄雄君） 以上で、竹田秀泰君の一般質問を終了いたします。

池田謙次君。

○議員（池田謙次君） それでは、通告に従いまして2点ほど、確認も含めてであります。1点目は災害対策について、岸壁の耐震状況、2つ目は、自然エネルギーと次世代エネルギー拠点構想について、この2点、簡潔にお聞きしたいというふうに思います。

まず、1点目の災害対策についてでありますけれども、現在は全国的に毎年のように自然災害が発生をして、各地域で大なり小なりの被害が出ております。苫小牧港の自然災害、特に地震等の岸壁の耐震対策は、どのようになっているのか、まずお聞きをしたいというふうに思います。

次に、2点目でありますけれども、これは以前にも質問させていただきました自然エネルギーと次世代エネルギー拠点構想、これはどこまで現状として進んでいるのか。

まず、1つ目の自然エネルギーは、これは以前にも話題となりました洋上風力構想についての現状はどうなっているのかというのがあります。

次に、次世代エネルギー拠点構想でありますけれども、1つには数年前から騒がれている課題になり話題でありますけれども、地元企業さんの動きというのとはどのようなものなのか、2点目として北海道の動きはどうか、3つ目として苫小牧港の拠点としての可能性、いろいろな私なりに条件を考えますと、北海道、東北以北を含めても、何といても最適なのはやはり苫小牧港であろうというふうに自負をしているのでありますけれども、この点も含めてどうか、御見解をお聞きしたいというふうに思います。

○議長（藤沢澄雄君） 答弁を求めます。

管理者職務代理者専任副管理者、佐々木秀郎君。

○専任副管理者（佐々木秀郎君） 私のほうからは、今の池田議員からの御質問のうち、自然エネルギーと次世代エネルギー、その中でも拠点構想の現状について回答させていただきたいと思っております。

現在、苫小牧のエリアで次世代エネルギーの民間の主な取組ですが、2点あるというふうに認識をしております。1つは、皆さん方も新聞等でよく目にされていると思っておりますけれども、出光興産ほか2社がコンソーシアムを組みまして「苫小牧西部エリアにおける国産グリーン水素サプライチェーン構築」という1つがあります。もう一つは、北海道電力株式会社ほか5社のコンソーシアムで進めてらっしゃいます「北海道苫小牧地域でのアンモニア供給大規模拠点」という2つのものがありまして、これはどちらもそれぞれ実現可能性調査を実施している段階で検討を行っていらっしゃいます。

また、この2つとはまた別に、石油資源開発株式会社ほか2社が合同で現在、苫小牧エリアにおけます先進的CCS事業開始に向けた事業性の調査も行っているというところでございます。

2点目の北海道の動きはどうかということですが、北海道のほうでも、この国が進めようとしております次世代エネルギー供給拠点に道内のエリアが選定されるように地域

や関連企業と連携しながら取組を行っているというふうに向っております。

3点目、最後ですが、苫小牧港のこの次世代エネルギー拠点形成の可能性についてということですが、まず、当港には道内唯一となります石油精製所があること、そして道内最大の火力発電所が立地していること、そして海上及び陸上輸送ネットワークが既に構築されていますことから、現状においても道内、北東北の一部を含めたエネルギー拠点となっているということが言えると思います。また、過去には全国で唯一のCCS大規模実験も行われたという実績も有しているところであります。

そして、今ほど説明させていただきましたとおり、この地域において、水素、アンモニア、先進的CCS事業、こういった多様な次世代エネルギー関係のプロジェクトが同時に検討されている、こういう地域は全国的に見ても極めてまれな地域だというふうに言えると思います。

これらのことから、苫小牧港は、次世代エネルギーの供給拠点になり得るポテンシャルを十分に有していると捉えておりまして、当管理組合といたしましても、各事業が経済産業省等の支援に選定されますよう、関係機関と連携し、事業者をサポートしてまいりたいと、このように考えているところでございます。

私からは、以上です。

○議長（藤沢澄雄君） 施設部長、松田雅宏君。

○施設部長（松田雅宏君） 私からは、岸壁の耐震対策についてお答えさせていただきます。

苫小牧港港湾計画では、大規模地震対策施設といたしまして、緊急物資や幹線貨物輸送の拠点として機能する耐震強化岸壁を3バース位置づけているところでございます。既に苫小牧エリアにおける緊急物資の輸送機能確保のための西港区西ふ頭の1バースが平成25年度に、また、国際海上コンテナ幹線物流機能維持のための東港区中央ふ頭コンテナターミナルの1バースが平成27年度に完了しているところでございます。

現在、東胆振エリアにおける緊急物資の輸送機能確保及び国内海上幹線貨物の輸送機能維持のため、東港区周文ふ頭の1バースが整備中でございまして、引き続き、早期供用に向け取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長（藤沢澄雄君） 総務部長、早崎仁康君。

○総務部長（早崎仁康君） 私のほうからは、自然エネルギーと次世代エネルギー拠点構想のうちの洋上風力についてお答えさせていただきたいと思っております。

洋上風力構想の現状についてのお尋ねでございますが、苫小牧沖での洋上風力事業につきましては、太平洋沖の風況的に事業の潜在的能力が見込まれており、当管理組合に対して、ここ数年で幾つかの民間企業から問合せがございましたが、関係機関との調整がつかず、現在では進んでいるものはございません。

以上でございます。

○議長（藤沢澄雄君） 池田謙次君。

○議員（池田謙次君） ありがとうございます。

再質問を2点ほどさせてもらいます。

まず1点目でありますけれども、施設部長の御答弁で、3バースがあつて、平成25年、平成27年に既に完成であるというお話がありました。残りは周文の1バースでありますけれども、早期供用に向けてという意気込みは分かりますけれども、これは具体的に分かるのであれば、いつぐらいを目途にこの3つ目の3バースの整備が終わるのか、お聞きをしたいなというふうに思います。

次に、2点目でありますけれども、専任副管理者から御答弁いただきました。私も様々な環境が整っている、北海道、東北以北でやはり苫小牧が最適だろうし、そこに本当に尽力をしていきたいなというふうに思うのですけれども、それで何としても国の指定をいただきたいと思う中で、先ほどの専任副管理者の最後の御答弁で、関係機関と連携をして事業者をサポートしてまいりたいというお話がございましたけれども、これはもし具体的に、このような民間企業に対するサポートをしながら何としても国の指定を勝ち取っていききたいということかなと思うのですけれども、具体的に分かる範囲で結構なので、教えていただきたいというふうに思います。

○議長（藤沢澄雄君） 答弁を求めます。

管理者職務代理者専任副管理者、佐々木秀郎君。

○専任副管理者（佐々木秀郎君） それでは、私のほうから拠点構想の実現に向けて、港湾管理者としてどういったサポートをしていくのかという点について回答させていただきたいと思います。

拠点構想の実現というよりも、一番具体的に実現に近づけるためには、やはり経済産業省からの補助を事業者が得るということが一番ポイントになってくると思います。これはかなりの金額になるということです。

そこで、経済産業省が選定をするための一つの条件として、各事業者の計画が地元のいろいろな計画とマッチしていることという条件がございます。つまり、事業者が勝手に自分だけで考えた計画でないことということがあります。

これにつきましては、苫小牧市のほうで進めていらっしゃる検討会の中でも取り上げていただいていますし、港湾管理者としましては、昨年、港湾脱炭素化推進計画というのを作成したり、それから一連の中でワーキンググループを立ち上げまして、そこで最終の報告書を書いていると。その中に、これら2つの事業については十分に意識した表現をしておりますので、その点からまず、地元との調整という点は港湾管理者としてもマッチさせるような形でやっているということが1点ございます。

それから次に、このプロジェクト、我々は各事業者と相当密に情報交換を進めながらやっているのですけれども、これらのプロジェクトが具体的にやってきた段階で、恐らく港湾計画の主として土地利用関係だと思っておりますが、一部を変更することが必要になってくると思います。また、場

合によっては臨港地区の分区の場所の見直し、そういった事業を進めていただくために、港湾計画、臨港地区制度、こういったいろいろなものの中で修正といいますか一部変更が必要になってくるものというのが出てくるのが予想されて、これらに関しては各事業者のスケジュールに合わせて遅滞なく我々として対応していくというつもりでございます。これが大体決まっている時点なのですが、まだなかなかはっきりしない事業スキームが、事業の内容がはっきりしない部分はあるのですが、いずれ、もしもできるのであれば、何らかの形で公共事業などでもサポートすることができないかというのは常に念頭に持っているところでございます。

以上です。

○議長（藤沢澄雄君） 施設部長、松田雅宏君。

○施設部長（松田雅宏君） 私のほうからは、周文ふ頭の耐震強化岸壁についてお答えさせていただきます。

現在整備中の岸壁につきましては、国直轄事業の予算配分や現地の施工条件の変化などによりまして進捗に影響が生じることも想定されますが、今のところ、令和9年度の完了予定とされているところでございます。引き続き、耐震強化岸壁の整備促進につきまして国に働きかけてまいります。

以上でございます。

○議長（藤沢澄雄君） 以上で、池田謙次君の一般質問は終了いたします。

以上をもって、一般質問は全て終了いたしました。

○閉会

○議長（藤沢澄雄君） 以上をもちまして、本議会に付議された案件は全て議了いたしました。

閉会に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

本議会に付議されました案件は、報告1件、議案1件であります。皆様の御協力により、滞りなく議了いたしましたことに、議長として厚くお礼を申し上げますとともに、議員各位の熱心な御審議を得ましたことに重ねてお礼を申し上げます。

これをもちまして、令和6年第3回定例会を閉会いたします。

御苦労さまでございました。ありがとうございます。

（了）

午後2時18分 閉会